~みんなで見直そう地域の絆~

『農と環境を守る地域協働活動シンポジウム』を開催

京都府農地・水・環境 保全向上対策協議会

「新たな」の意味するところは

11月17日(土)にKBSホール(京都市)において『農と環境を守る地 域協働活動支援事業(農地・水・環境保全向上対策)』に係るシンポジウム を開催し、府内外から400名を超える多くの方が参加されました。

本シンポジウムは、農村における"地域力再生"の取組の一つとして本年度 から新たに始まった本活動を、広く府民の方に理解を深めて頂くため開催し たもので、農村の現状や地域での頑張りなどを発信しました。

時: 平成19年11月17日(土) 午後1時30分~4時30分 ОВ

〇場 所: KBSホール (京都市上京区)

〇 参加者: 約410名 (府内各地域の活動組織、一般参加者、行政関係者他)

京都府、京都府農地・水・環境保全向上対策協議会 催:

基調講演 (近畿大学農学部 池上甲一教授)

演題「農村地域力による新たなまち起こし・むら起こし」

地域おこしの活動事例を交えながら、"地域力"について 講演「地域力の基本は環境・資源管理であり、まずは声 をかけ、一歩を進めることが大切である。」

事例報告) 2 地域

(1) 京都市左京区大原地域

大原里づくりトライアングル 代表 〇〇〇〇氏

「癒しのある里づくりを目指して」をテーマに、非農家と協働した遊休農地再生による観光梅園づくりや学校と連携したオオムラサキの保護の取組などについて報告「5年後の大原を楽しみに!」と活動報告

(2) 京丹後市久美浜町甲山地域 甲山区活性化協議会 代表 〇〇〇〇氏

「地域協働活動から見えてきた むらの絆」をテーマに 集落全体で取組む農地等の保全活動や、子ども会と連携し た生き物水路づくりや生き物調査の取組など報告 「子ども達と一緒に集落を守っていきたい」と報告



コーディネーター 池上 甲一 氏 (近畿大学農学部 教授)

パネリスト ○○ 氏 (大原里づくりトライアングル 代表)

〇〇 〇〇 氏 (甲山区活性化協議会 代表)

○○ 氏 (NPO法人日本都市農村交流ネットワーク協会 理事)

氏 (府農業士会副会長、南丹市八木町在住)

山崎 弘士 氏 (KBS京都Radioパーソナリティ)



- 農村女性のパワーを地域づくりに
- り地域活性化につなげていきたい。 (谷氏)
- 農村で農業を頑張っている人は本 当の「文化人」であると言いたい。 (山崎氏)

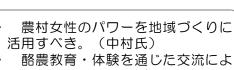
など、参考となる活動報告があ り、活発に意見交換されました。

参加者の感想

(アンケートより)

- 「今後の取組に明かりが見えてきた。活動のヒントをいただいた。」
- 「力の出るシンポジウムであった。」
- 「ふるさとへの想いが呼び起こされた。
- 「来年も開催され、より多くの地域の事例を知りたい。





農地·水·環境 保全向上対策

京都で新たなむら興した

ことを報告するなど、対策によって地域が活気づく効果が見えてきた。 後市の組織が、地域力による新たなむら興しや幅広くきずなを強められた 像市の組織が、地域力による新たなむら興しや幅広くきずなを強められた では、京都市大原地域と京丹 域力の基本」と、保全する地域協働活動シンポジウム」 農業)が支え、それが地 とでは、京都市大原地域と京丹 域力の基本」と、保全する地域協働活動シンポジウム」 農業)が支え、それが地 とでは、京都市大原地域と京丹 域力の基本」と、保全する地域協働活動シンポジウム」 農業)が支え、それが地

幅広く府民に理解しても「ら400人が出席した。」起こし・むら起こし」と全していく取り組みを、「議会が共催。府内各地か「地域力による新たなまちり、農地や水路などを保」水・環境保全向上対策協「の池上甲一教授が「農村農家と住民が一体とな」らおうと、府と府農地・「初めに近畿大学農学部」

ずなづくりの大切さ」を ること、そして地域のき を話した。 報告、活動を通して見え のふるさとは自分たちの 指す」とし景観を守るに 村・いやしの里大原を目 たちに地域のことを伝え さを述べた。 は農業を守ることの大切 手で守ることや、子ども 林保信さんは「自分たち てきた新たな地域づくり 台活性化協議会代表の平 また、京丹後市の甲山 が深まる」などと、あら ことで住民とのつながり だけでは農村は守れな 活動の維持・再生につい サーら6人が て」をテーマにパネルデ の中で国民の食生活を支 い」「子どもが参加する えている人は文化人だ 摘した。また、「原風景 策」活動のポイントを指 ためて地域ぐるみの一対 ィスカッション。「農家 「地域協働

と評価する声もあった。 最後に協議会副会長の 務が「次世代に引き継ぐ なう、府内全域で活動が 進むように協議会も支援